

WLB-CAN Bluetooth CANバス中継モジュール

配線不要でCAN Busライブデータをリモート計測

車両データをBluetoothで各種デバイス(スマホ/タブレット/PC/Mac)にストリーミングおよび記録。

キャビン内へのケーブル引き込みの手間を無くし、重機の稼働範囲外の安全な場所から作業を実行できます。

- ワイヤレスBluetooth – Bluetooth Low Energyでスマホ・タブレット・PC・Macへ
- J1939完全対応 - SAE J1939/CAN 2.0B 20k~1Mボー、自動検出
- 堅牢でシンプル：DC6-80V電源、密閉ボディ、Deutsch DTコネクター
- 24チャンネルのデコード信号をリアルタイムで表示・記録
- 小型・コンパクト設計



プラントエンジニアリング

自動車・輸送用機器

工場産業機械

航空宇宙

鉄道車輛

WLB-CANは、車両、重機、産業用機器などのCANバスに接続し、そのデータをBluetoothでワイヤレス送信する無線化モジュールです。

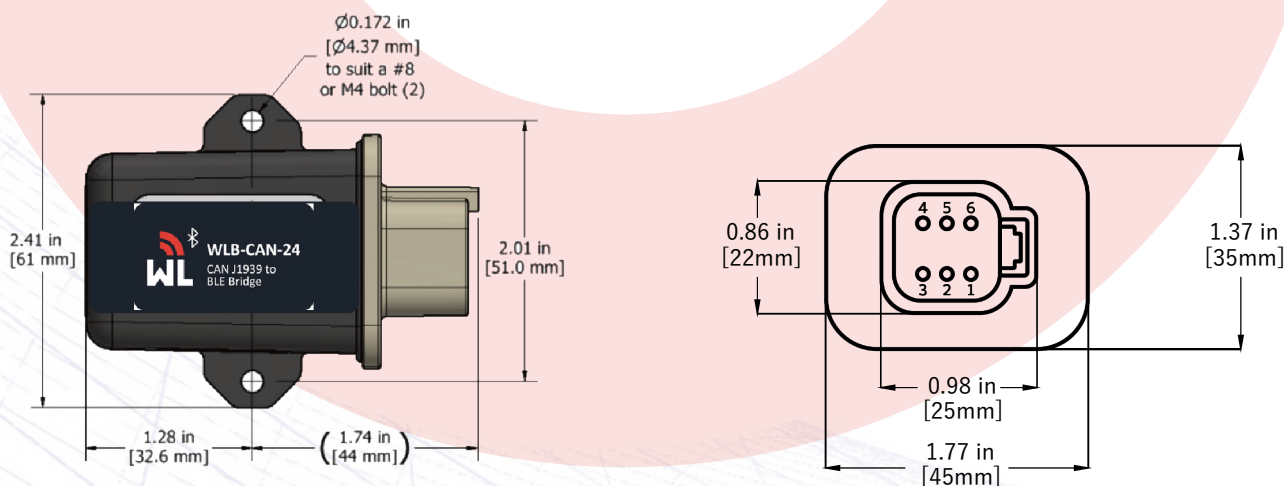
当社のマルチプラットフォーム対応ソフトウェア「Watchlog Connect」と連携させることで、Bus内の通信内容のモニタリング、DBCファイルのインポート、さらに最大24チャンネルのデータ表示および記録が容易に行えます。

本製品には、取扱説明書に加え、設置時に必要となる終端抵抗が同梱されます。

技術データ

電源	
電源電圧	DC6-80 V (公称12/24/48 V)
保護	逆接続保護・過渡電圧保護付き
CAN/SAE J1939	
プロトコル	SAE J1939, CAN 2.0B (11 & 29-bit)
ボーレート	自動、20k、50k、100k、125k、250k (初期値)、500k、1M
J1939アドレス	128 (0x80)、任意アドレス対応
終端	120 Ω抵抗×2個 付属
ワイヤレス・ソフトウェア	
無線	Bluetooth
ホストソフトウェア	Watchlog Connect (Windows、macOS、iOS、Android)
チャンネル	DBCデコード信号 最大24個の表示・記録
設定可能項目	Bluetooth ID, ボーレート, PGNフィルタリング, ブリッジ/インターフェースモード
機械的仕様	
コネクタ	TE Deutsch DT04-6P (嵌合相手DT06-6S 付属)
寸法	61 × 51 × 77 mm (2.41 × 2.01 × 3.02 in)
取付	Ø4.37 mm穴×2 (#8/M4ボルト用)
構造	堅牢な樹脂封止ハウジング
認証	
認証取得	CE・UKCA・FCC・GITEKI

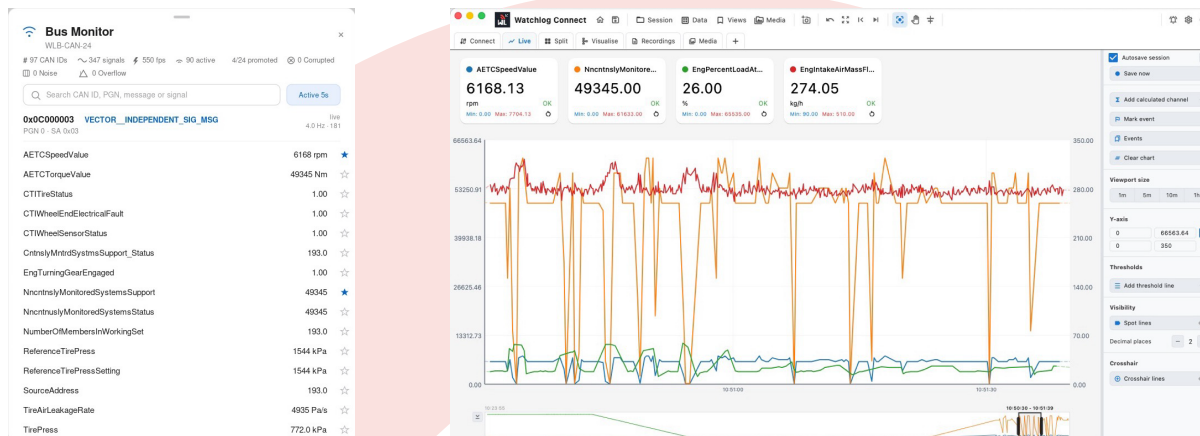
寸法



ピン	機能	配線/接続
1	CAN Shield	ドレイン/シールド (片端接地)
2	CAN_H	CAN High (J1939 黄)
3	CAN_L	CAN Low (J1939 緑)
4	BATT -	電源マイナス/0 V
5	BATT +	電源DC6-80 V (ヒューズ)
6	-	-

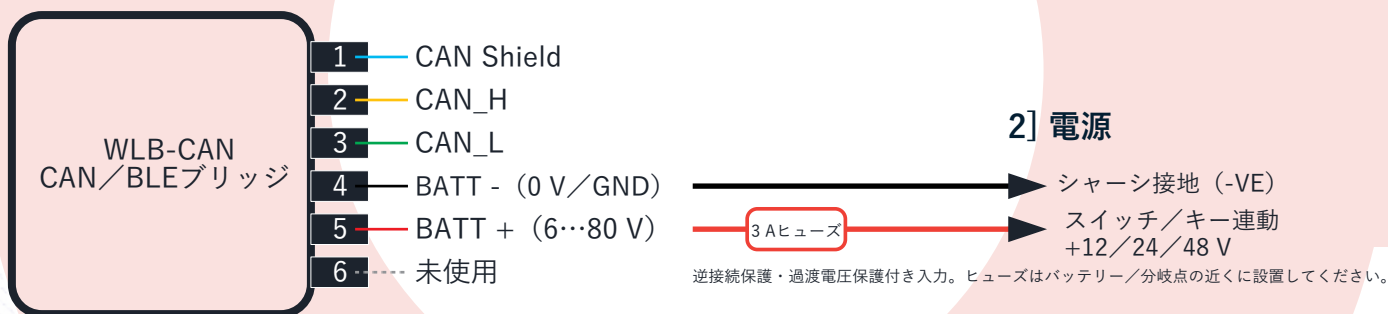
ライブビュー スマホやタブレットで車両・機械のCANデータをリアルタイム監視

車両や建設機械のCANバスに接続するだけで、走行・作動データをBluetoothで手軽に転送。クロスプラットフォーム対応の専用アプリ「Watchlog Connect」を使えば、ノートPCを持ち込むことなく、データの閲覧・記録やDBCファイルの読み込みが可能です。エンジン、トランスミッション、タイヤ、油圧などの重要信号をスマートに視覚化します。

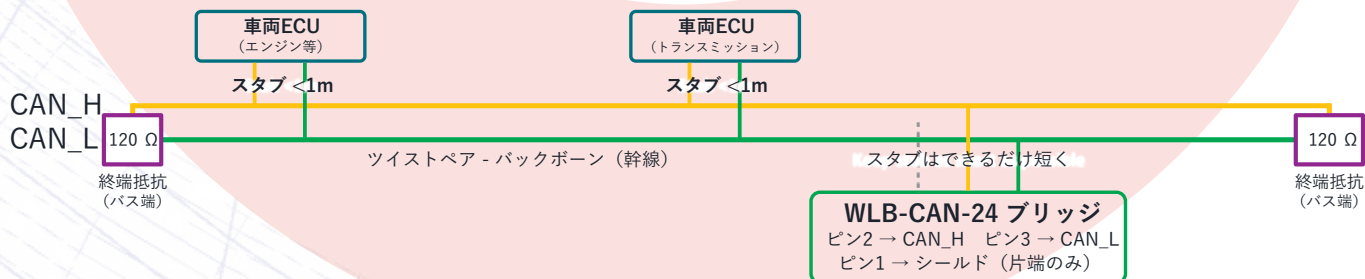


J1939バスへの配線と接続

1] モジュールコネクタのピン配置 (DT04-6P)



3] 車両のJ1939 (SAE J1939-11) バックボーンへの接続



J1939の終端と抵抗 - 接続前にお読みください

- J1939バスには、バックボーンの両端に1本ずつ、合計ちょうど2本の120 Ω抵抗が必要です。並列で、CAN_H - CAN_L間は約60 Ωになります。
- CAN_HとCAN_L間の抵抗を測定 (バス停止時) : 約60 Ω = 正しく終端、約120 Ω = 終端抵抗が1本不足、開放/高抵抗 = 終端なし。
- WLB-CANには終端抵抗が内蔵されていません。終端済みのバスから短いスタブ (分枝) として配線してください。ブリッジ側に抵抗を追加しないでください。
- ブリッジが物理的なバスの端にある場合 (例: ベンチ上のノードや自作ハーネスの最終機器) に限り、ピン2 (CAN_H) とピン3 (CAN_L) 間に120 Ωを1本追加してください。

シールドと接地

- ピン1 (CANシールド) をケーブルのドレイン線に接続します。
- グラウンドループを防ぐため、シールドは1点のみで接地します (通常は車両シャーシ側)。
- BATT - (ピン4) とシールドは別々の線にしてください。

4] Watchlog Connectでの接続

WLB-CANを「CAN-to-BLE Adapters」で登録し、「Bus Monitor」でチャンネルを選択します。